

# R2 わかる・できる・つかえる授業改善シート

## 授業モデル

年  組 授業者   
 教科   
 単元

名前や学年、学校で共通している内容は、プルダウン選択できます。

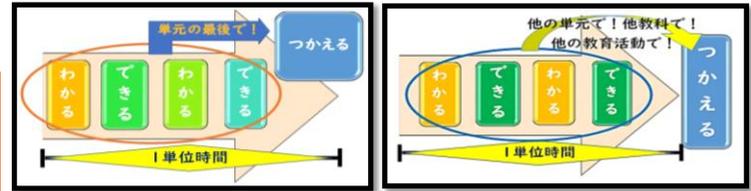
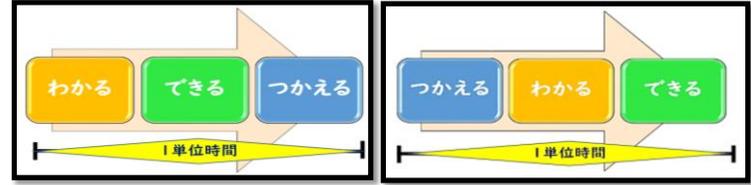
ここに授業モデルの図を貼って下さい。モデルは、これから増えていく可能性もあります。

つかえる・活用する・生かす場がどこにあるのか、児童も教師もしっかり押さえて授業に臨みたいですね。互いに見通しを持つことが重要！

本時の目標は、3観点で記入。

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力
- 主体的に学習に取り組む態度

【学びに向かう力・人間性】



【児童が学んだ力を発揮する場】・・・単元における身に付けさせたい力の明確化

本時の目標

### 本時略案 (簡単な流れ)

課程	簡単な学習内容 (アウトプット場面を意識) / 評価場面	UD及びALの視点/ 見方・考え方
導入 (参加)	深い学びを生む学習課題 (めあて)	
展開 (理解)	展開 ●児童の活動を簡単に記載。活動の流れが伝わる程度で構いません。 ●1時間完結の授業を目指す観点から時間配分も記載できるとよい。 ●アウトプットの場面を意識して記載する。 ●評価場面を記載する。	
	まとめ	
	終末 (活用)	終末 (まとめ) ●まとめは、課題との整合性を図る ●活用場面を意識できるようなまとめをする ●振り返りも含む ●新たな学びに向かう力

深い学びを生む課題を工夫していませんか？

「○○しよう」というレツツ型の課題よりは、「なぜ○○なのか？」「どうすると○○できるか？」などの疑問型にすると課題に対するまとめの整合性を意識しやすいです。アウトプット型 (行動表記) の課題を意識。

※児童が追及したくなる課題を設定しましょう！

例えば・・・

- ① 既習事項や既有事項とのズレが生じる課題
- ② 意見の対立・拮抗が生じる課題
- ③ 目標の達成までにある程度のハードルがある課題
- ④ 各教科の見方・考え方を働かせて展開できる学習課題

UDの視点

〔参加場面〕

- ・学級内の理解促進・・・失敗をからかわない学級の雰囲気づくり
- ・ルールの明確化・・・学級の基本ルール (授業ルール) 授業へ参加しやすい環境づくり
- ・刺激量の調整・・・教室内の掲示物、雑音などの調整
- ・場の構造化・・・教室の物品の置き場。黒板使用の構造化など
- ・時間の構造化・・・授業の流れに見通しをもたせる

〔理解場面〕

- ・焦点化・・・授業のねらいや活動、発問などを絞る
- ・展開の構造化・・・授業の進め方や説明の仕方を構造化する
- ・スモールステップ・・・学習過程に細やかな段階をつくる
- ・視覚化・・・挿絵、写真、動画などICTの活用で視覚的に理解しやすくする
- ・感覚の活用・・・動作化や作業化により理解を深める
- ・共有化・・・話し合い活動を組織し、理解を学級全体ではかる。(アウトプット)

〔習得場面〕

- ・スパイラル化・・・既習事項の反復学習及び他教科との連携

〔活用場面〕

- ・適用化、機能化・・・「見方・考え方」を意図的に別の単元でも！ 授業で習得した知識・技能を実用的に活用する

### 授業改善のポイント